

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[OOM エラーを解決して下さい](#)

[メモリ グラフを表示して下さい](#)

[自動 Garbage Collection を行う反復的な試みを捜して下さい](#)

[自由な未使用メモリ ボタンを使用して下さい](#)

[集められた完了された要求を削除して下さい](#)

[問題の特定](#)

概要

この資料は最初のプロセスを説明したものです Cisco インフォメーション・サーバー (CIS) のメモリ (OOM) エラーからに応答するために使用する。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CIS
- OOM エラー

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は CIS バージョン v6.2.0 に基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

OOM エラーを解決して下さい

これらのステップは OOM エラーを受け取る時使用する必要がある最初のプロセスの外観を提供します:

- 原因クエリをもし可能なら識別し、再現性を確認して下さい。
- サーバーのメモリ リーク (回復不可能なメモリ識別して下さい先に消費された) を。
- クエリがメモリ枯渇の原因または対象だったかどうか確認して下さい。

メモリ グラフを表示して下さい

一定メモリの近くの点灯状態 (緑) 行アクティブな要求が現在動作しない間、(総メモリ) ホバーがキャップし、黄線 (マネージ メモリ) が下部のの近くになれば場合、リークがあるかもしれません。

自動 Garbage Collection を行う反復的な試みのための検索

cs_server.log ファイルでは、これに類似したのようである複数の連続したエントリがあります:

これはそれは GC を行う時間であるおよび GC はそれ自身を繰り返しますことを Garbage Collection (GC) が Java Virtual Machine (JVM; Java バーチャルマシン) 有効に毎回ない判別するときメモリが回復不可能であることを示します。

自由な未使用メモリ ボタンを使用して下さい

自由な未使用メモリ ボタンを使用するとき、JVM の手動 GC を行います。総メモリがグラフで回復しない場合リークがあるかもしれませんまたはメモリをリリースする必要はないことを JVM は決定しました。

集められた完了された要求を削除して下さい

スタジオ マネージャ 要求 コンソールに現われる集められた完了された要求を削除できます。電流はディスプレイからクリアされるまでそのメモリに異常なメモリ保持を時々消費する石鹼クライアントからの一般 品目を、特にそれら完了しました。

問題の特定

リークが始めた時間を推定して下さい。リーク (決して回復しない上向きの開始するが上昇含まれているメモリ グラフの一部が図を過ぎて) 転送する場合、cs_server_status.log ファイルからの発生の推定所要時間を見つけられますかもしれません。このファイルに、ナビゲートはに達するために <CIS_INSTALL_DIRECTORY> > > cs_server_status.log 記録します。デフォルトで、さまざまなサーバー利用状況のスナップショットはこのログに 60 分毎に書かれています。全面的でヒープ な使用中をトラッキングするために、ステータス ログのこのセクションを表示して下さい:

時をヒープ なサイズ突然上昇捜して下さいおよび決して落ちない。これは原因 イベントが起こったときに推定をの出します。またその時に動作するクエリのスナップショットがあります、潜在的な問題への糸口を提供するかもしれない。メモリが重く消費される期間を識別すれば、このヘッダが含まれているステータス ログのセクションを探することができます:

これはほとんどのメモリをその時に使用する要求のリストです。またスタジオ要求 コンソールで表示するこれを表示できます。

この時点で、疑わしいメモリ使用量のために視聴するためにサーバを単に再起動し、メモリグラフを定期的に監視し始める必要があるかもしれません。

注 v6.2 では、`/logs/ "javapid<*>.hprof` と名付けられるヒープなダンプするファイルは自動的に OOM が検出するとき生成されます。このファイルを表示するとき、メモリが減ったときに示します。また糸口のために分析することができるように、Cisco サポートチームにこのファイルを送信できます。

時々リーク、単にエラーを引き起こす非常にメモリに負荷をかけるクエリがありませんが。通常メモリはクエリが失敗した、他のほとんどのアクティビティを続けられます後回復可能であり。スパイクを探し、メモリグラフで落として下さい。

OOM エラーが単一確認可能なクエリによって引き起こされる場合、Java ヒープおよびメモリコンフィギュレーションに再アクセスして下さい。全面的なヒープをと RAM サポート、64 ビットの 32 のビット オペレーティング システム (OS) のための、またはそれを越えるおよそ 1.3 GB まで OS 高く上げて下さい。シングル ユーザが全体のユーザコミュニティを犠牲にしてサーバーのメモリすべてを消費する状況に陥らないようにするために要求ごとのメモリの適切な設定を検討して下さい。

クエリが正規に性質による大量のメモリを消費する必要がある場合メモリ枯渇を防ぎ、メモリ枯渇から他の要求を保護するためにクエリ選定された文にの付加を{オプション FORCE_DISK}考慮して下さい。これは他のユーザー要求しかその時に寄与しませんが、実際に集中的なクエリーのパフォーマンスを高めます。これはディスクに代りにこぼれる必要を見つけると処理されたときキャンセルするこぼれ、最初にメモリを使用する試みを試みないしディスクにすぐにと理由によります。